

中島知久平略歴

明治	17年	糸吉・いつの長男として押切町に生まれる
	35年	軍人を志し、押切町の家を出て上京
	40年	海軍機関学校を3番以内で卒業
	44年	海軍機関大尉に昇進
	45年	海軍大学を卒業 アメリカで飛行機の製作や整備などを研究、操縦免許も取得
大正	2年	海軍機工場長で海軍初の飛行機を製作
	6年	海軍を退官 太田に飛行機研究所を開設
昭和	5年	衆議院議員初当選、以降4回最高位当選
	9年	太田新工場完成 昭和天皇が工場に行幸
	12年	鉄道大臣となる(群馬県人で初の大臣)
	14年	政友会第8代総裁となる
	20年	軍需・商工大臣で敗戦処理、正三位を受賞
	24年	死去、65歳、墓所は押切町徳性寺

『太田に光をあたえた先人たち』(太田市教育委員会 平成15年3月31日発行)より

中島邸のあゆみ

		主な出来事
大正	15年	設計図案(7月)、平面図(12月)が作成され、中島知久平邸建設が具体化する。
	4年	地鎮祭(10月12日)
	5年	主屋上棟(4月17日)、屋敷神社殿地鎮祭(12月5日)
	6年	正門上棟式(4月29日)、門衛所上棟(7月23日)
	7年	父糸吉の棺を客間に安置して葬儀を執り行う(4月9日)
	21年	※GHQが将校倶楽部として接収(2月25日)、知久平の妹、中島あや氏ら6月頃まで居住
昭和	22年	カスリン台風による洪水のため、床上浸水する(9月15日)。
	27年	※サンフランシスコ講和条約(「日本国との平和条約」)調印後、日本政府が借上げ米軍に提供
	28年	※米軍から返還(6月)。その後1年間ほど空き家状態が続く。
	29年	※進駐軍家族に賃貸(当初は5家族、最後は1家族)
	33年	※空き家状態となる(春頃)。
	43年	※中島あや氏ら入居
平成	11年	空き家となる(6月)。
	21年	土地(買収)、建物(寄附)が、太田市の所有となる(3月)。太田市重要文化財指定(5月20日)
	26年	「太田市中島知久平邸地域交流センター」オープン(6月14日)
	28年	国重要文化財指定(7月25日)

※印の出来事は、聞き取り調査による。

利用案内

利用時間：午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)

年未年始(12月29日～1月3日)

入館料：無料

第一応接室・第二応接室は貸し出しもします。詳しくはお問い合わせください。

交通のご案内

鉄道

東武伊勢崎線：太田駅からタクシー15分

J R 高崎線：熊谷駅からタクシー30分

籠原駅からタクシー25分

マイカー等

東北自動車道：館林ICから40分

関越自動車道：東松山ICから50分・花園ICから45分

北関東自動車道：伊勢崎ICから30分

太田藪塚ICから30分

太田桐生ICから25分



お問い合わせ先

太田市中島知久平邸地域交流センター

〒370-0405 群馬県太田市押切町1417 TEL 0276-52-2235

施設管理：太田市教育委員会 文化財課

〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL 0276-20-7090

国重要文化財

旧中島家住宅

(太田市中島知久平邸地域交流センター)



1万平方メートルの敷地に広がる近代和風の大規模邸宅

中島飛行機(株)の創設者・中島知久平なかしまちくへいが両親のために築いた大規模邸宅です。来客を迎える重厚な車寄、スタンドグラスやシャンデリアなど細部にわたり高価な装飾が施された応接間、客間から見渡せる広い前庭など、宮殿建築としての特徴が随所に見られる、群馬県を代表する近代和風建築です。現在、地域交流センターとして、一部を公開しています。



■ 玄関広間 (改修前)



■ 第二応接室 (改修前)

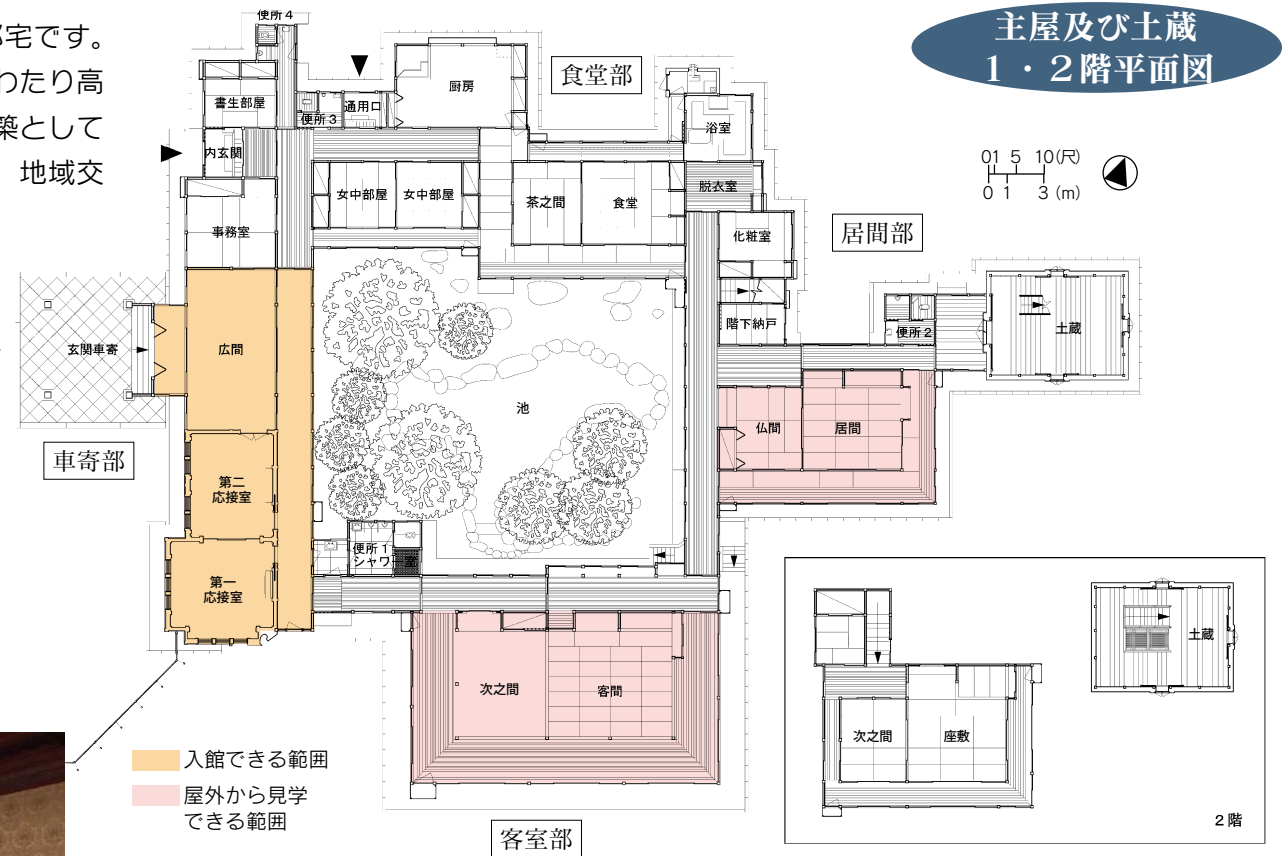


■ 第一応接室 (改修前)



島家本邸新築正面図
縮小五分一

伊



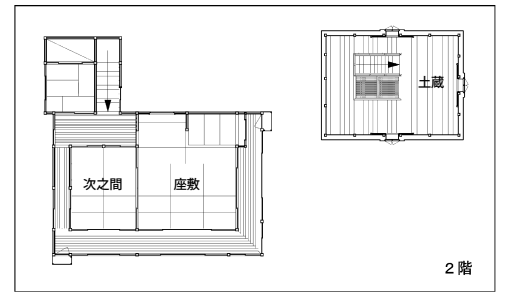
■ 次之間・客間 (屋外から見学)



2階座敷 (非公開)



■ 居間 (屋外から見学)



2階